



3 国有林野の林産物の供給

3 国有林野の林産物の供給

(1) 計画的な収穫の実施

木材等の林産物については、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を進めることを基本として、自然環境の保全等に十分配慮しながら、持続的・計画的に供給するとともに、地域の需要動向等に応じたタイムリーな供給に努めています。平成15年度には486万m³の木材等を収穫しました。

また、育成林^注の適切な整備を進めるため、作業道の整備や高性能林業機械の導入により作業の低コスト化を図り、間伐や複層林への転換のための抜き伐りを積極的に行いました。

さらに、多様な森林を有しているという国有林野の特性を活かし、民有林からの供給が期待しにくい大径長尺材や、木曽ヒノキ、天然秋田杉^注等の銘木の計画的な供給に努めています。

表 - 14 収穫の実施状況 (単位: 万m³)

区分	平成15年度	(参考)平成14年度
主伐 ^注	149	167
間伐	337	298
合計	486	464

表 - 15 民有林からの供給が期待しにくい樹種の素材(丸太)供給実績 (単位: 万m³)

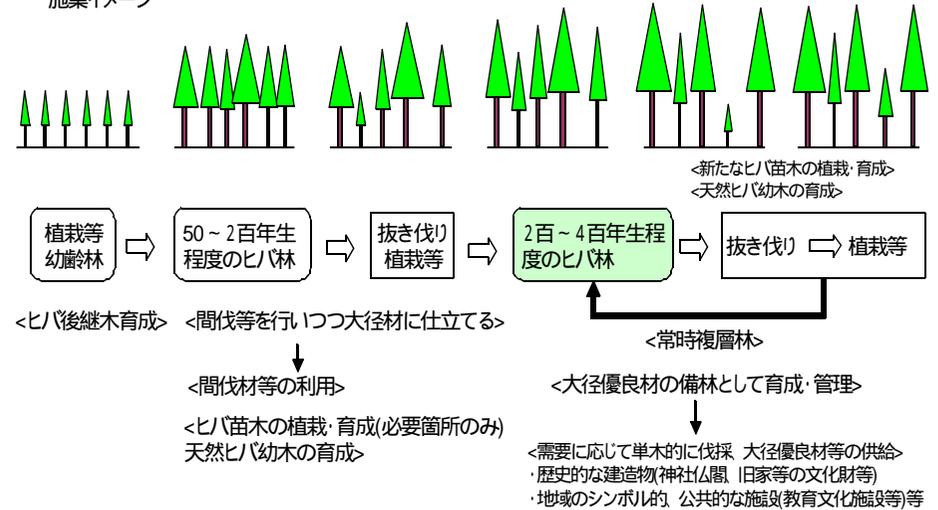
樹種名	平成15年度	(参考)平成14年度
ヒバ	4.3	3.8
木曽ヒノキ	0.7	1.0
天然秋田杉	0.3	0.4

事例 北の木の文化貢献の森～道南のヒバ大径材の長期育成・保全～
 北海道森林管理局函館分局では、民有林からの供給が期待しにくい、歴史的建造物の修復などに使用するヒバの大径材を安定的に供給できるよう長期にわたり育成・管理を進める「北の木の文化貢献の森」を檜山森林管理署管内に6箇所(471ha)設定しました。
 (北海道森林管理局 函館分局)

「北の木の文化貢献の森」の概要

目標: 道南の国有林におけるヒバ大径材の長期育成・保全

施業イメージ



具体的な取組

- ・ 将来的に、歴史的建造物の修復等に必要大径優良材等を安定的に供給できるよう、超長伐期(200年～400年程度)の取扱を行う林分を設定し、必要な施業と管理を実施
- ・ 江差町、厚沢部町、上ノ国町及び上磯町に所在する国有林からヒバ林を選定(6箇所、471ha)
- ・ 取組に当たっては、地域住民等の参加により国有林を活用してヒバ大径材を育成するために江差町に設定されている「檜山古事の森」(5ha)と一体的に実施

(2) 林産物の販売等

平成15年度の木材販売量は、立木販売^{注)}については12万m³減少して208万m³に、素材(丸太)販売^{注)}については8万m³増加して67万m³となりました。

販売に当たっては、集成材・合板工場や大手住宅メーカーなどを対象に、製材品を大量消費する需要者へまとまった量の木材を供給する「新たなシステム販売」を推進し、安定的な販路の拡大に努めました。

また、需要動向により価格差が生じやすい天然林や高齢級の人工林についてはインターネット等を活用し、迅速かつ広範囲に公売情報を提供するなど樹材種の特質に応じた有利な販売や販路の拡大に努めました。

このほか、民間市場への素材販売の委託や、公共建築物への資材販売を行うなど、収入の確保に努力しましたが、木材価格の下落等により平成15年度の林産物等収入は212億円にとどまりました。

表 - 16 林産物等販売の状況

区 分	平成15年度		(参考)平成14年度	
	数 量 (万m ³)	金 額 (億円)	数 量 (万m ³)	金 額 (億円)
林産物等収入	-	212	-	224
立木販売	208	50	220	57
素材販売	67	151	59	156
そ の 他	-	10	-	11

注：1 数量は、立木販売については立木材積で、素材販売については素材(丸太)材積で示している。

2 「その他」は、官行造林官収分収入、分収育林官収分収入等である。

表 - 17 国有林材の販売単価の動向 (単位：百円/m³)

年 度	平成 10	11	12	13	14	15
立木販売	38	35	31	22	19	19
素材販売	291	326	337	358	264	225

注 販売単価は、立木販売については立木材積単位、素材販売については素材(丸太)材積単位の年間平均単価(実績)で示している。



場 所：宮城県黒川郡大 衡村 (宮城北部森林管理署管内)
 明：写真は、宮城北部森林管理署と仙台森林管理署で生産されたケヤキで、民間の市場で販売され、高値で落札されました。

事例 国有林材PR月間の一環として優良素材展示即売会への出品

北海道森林管理局北見分局は、国有林材PR月間の一環として「北見産優良素材展示即売会」に出品し、国有林の優良広葉樹材の普及宣伝に努めました。

管内各署から出品された、マカバ、イチイ、セン等約300m³で約38百万円の売り上げとなりました。

(北海道森林管理局 北見分局)



場所：北海道常呂郡留辺蘂町（網走中部森林管理署管内）
説明：写真は、優良材を展示即売会に出品している様子です。

事例 「顔の見える木材での家づくり」事業の推進

優良な地域材を地元の製材工場を経て確実に消費者に提供できるシステムを整備し、消費者が納得する家づくり等の活動をしているNPO団体「木曾のヒノキで家をつくる会」が開催した「山づくり・家づくりツアー」に協力して、地域材（間伐材）が育っている現地の案内や間伐作業体験の技術指導を行うなどの取組を行いました。

会の趣旨に賛同された3名の方が国有林材を使用した家づくりに取り組みました。

(中部森林管理局 木曾森林管理署)



場所：長野県木曾郡木祖村 小木曾国有林（木曾森林管理署管内）
説明：写真は、「山づくり・家づくりツアー」において、木曾森林管理署の指導のもとに、ツアーの参加者が間伐作業を行っている様子（左下）と、国有林材を使用して新築している住宅の様子（右上）です。